

柳 幸典 経歴

1959年 福岡県生まれ
1985年 武蔵野美術大学大学院造形研究科卒業
1990年 イェール大学大学院美術学部彫刻科（コネチカット州、ニューヘイブン、アメリカ）
2005年～ 広島市立大学芸術学部准教授

<受賞歴>

1993年 イェール大学フェローシップ、美術学部優秀賞
アジア・カルチュラル・カウンシル、日米芸術交流プログラム
第45回ベニスビエンナーレ、アペルト部門受賞
1995年 第6回五島記念文化財団美術新人賞
2000年 広島市制作委託

<主な個展>

2014年 「Money/ Flower」 マイケル・ジャンセン（シンガポール）
「USSR」 ミヤケファインアート（東京）
2013年 「New Works」 ミヤケファインアート（東京）
2012年 「Study For American Art」 ミヤケファインアート（東京）
2010年 「AMERICA」 ミヤケファインアート（東京）
「家プロジェクト」 犬島（岡山）
2009年 「MONEY on view」 ミヤケファインアート（東京）
2008年 「精錬所」 犬島アートプロジェクト（岡山）
2005年 「イカロス・プロジェクト」 福岡市美術館（福岡）
2002年 コッテムギャラリー（バルセロナ、スペイン）
「YUKICHI KV644955H」 三菱地所アルティウム（福岡）
2000年 「あきつしま」 広島市現代美術館（広島）
1999年 「New Work」 ヘインズ・ギャラリー（サンフランシスコ、アメリカ）
1998年 「Image, Nation and Transnation」
カリフォルニア大学アーヴィン校アートギャラリー（アーヴィン、アメリカ）
1997年 「Wandering Position」 チェンヘール・ギャラリー（ロンドン、イギリス）
ピーパー・カレッジ・アート・ギャラリー（フィラデルフィア、アメリカ）
ギャラリー・アース・フテューラ（チューリッヒ、スイス）
「Pacific」 ファブリック・ワークショップ・ミュージアム（フィラデルフィア、アメリカ）
「Alcatraz」 ピーター・ブラム（ニューヨーク、アメリカ）
「Pacific」 フジテレビギャラリー（東京）
1996年 「Field Work on Alcatraz」 キャップ・ストリート・プロジェクト（サンフランシスコ、アメリカ）
1995年 「Project Article 9」 クイーンズ美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「Project Article 9」 キリンプラザ大阪（大阪）
「The Chrysanthemum Carpet」 ピーター・ブラム（ニューヨーク、アメリカ）
「Matrix 128」 ワズワース・アセニウム（ハートフォード、アメリカ）
カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校大学美術館（サンタバーバラ、アメリカ）
1994年 「Union Jack Ant Farm」 アンソニー・ドフェイ・ギャラリー（ロンドン、イギリス）
1993年 「Hammer and Sickle」 ギャラリー・アース・フテューラ（チューリッヒ、スイス）
1992年 「YANAGI」 フジテレビギャラリー（東京）
「Wandering Position」 直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム（香川）
1991年 LACE-ロサンゼルス・コンテンポラリー・エクジビションズ（ロサンゼルス、アメリカ）
「—Hi-no-maru—1991」 細見画廊（東京）
「The World Flag Ant Farm」 ヒルサイドギャラリー（東京）
「The World Flag Ant Farm and Wandering Position : Project-Red, White and Blue」
リーマン・カレッジ・アート・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
1990年 「Wandering Position」 ヒルサイドギャラリー（東京）
ストアフロント・アート・アンド・アーキテクチャー（ニューヨーク、アメリカ）
1988年 「PLAN αM — transform」 ギャラリー αM（東京）
1987年 ヒルサイドギャラリー（東京）
1986年 「Ground 土の記憶」 神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
「Ground Transport」 ギャラリーセンターポイント東京、ギャラリーなつか（東京）

<主なグループ展>

- 2014年 「十字路—CROSSROAD」 ART BASE 百島 (広島)
「東アジアの夢 - BankART Life4」 BankART Studio NYK (神奈川)
「アートベース百島 コレクション」 ART BASE 百島 (広島)
- 2013年 「Noriyuki Haraguchi × Yukinori Yanagi」 アートケルン 2014, ミヤケファインアート (ケルン、ドイツ)
「ビヨンド・ヒューマン: アーティストと動物の共働」 ビーボディ・エセックス美術館 (ボストン、アメリカ)
「アジアコード: ゼロ」 ソウル・オリンピック美術館 (ソウル、韓国)
「六本木クロッシング 2013 展: アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」 森美術館 (東京)
「子ども美術展 アートであーと」 沖縄県立博物館・美術館 コレクションギャラリー1 (沖縄)
「横浜美術館コレクション展「賛美小舎」-上田コレクション」 横浜美術館 (神奈川)
「福岡現代美術クロニクル 1970-2000」 福岡県立美術館、福岡市美術館 (福岡)
「Re:Quest—1970年代以降の日本現代美術展」 ソウル大学校美術館 (ソウル、韓国)
- 2012年 「リバプール・ビエンナーレ 2012」 Tate Liverpool, Albert Dock (リバプール、イギリス)
「柳幸典×原口典之」 ART BASE 百島 (尾道)
- 2011年 「XXX Thirty Years Peter Blum Edition」 PETER BLUM SOHO, N.Y (ニューヨーク、アメリカ)
「第8回メルコスール・ビエンナーレ」 (ポルト・アレグレ、ブラジル)
- 2010年 「瀬戸内国際芸術祭 2010」 (岡山)
- 2008年 「シェルター×サバイバル—ファンタスティックに生き抜くための『もうひとつの家』」
広島市現代美術館(広島)
「アトミック・サンシャインの中へ—日本国平和憲法第九条下における戦後美術」
Puffin Room (ニューヨーク、アメリカ), ヒルサイドフォーラム (東京)、巡回: 沖縄県立美術館 (沖縄)
- 2007年 「シンプリーレッド」 ファブリックワークショップ アンド ミュージアム (フィラデルフィア、アメリカ)
「それでも人は「境界」を越える」 練馬区立美術館 (東京)
広島アートプロジェクト 2007 「金庫室のゲルトシャイサー」 旧日本銀行広島支店 (広島)
「シーズンズアンドシークエンシイズ」 アルガウア クンストハウス (アールラウ、スイス)
「ヒルサイドギャラリー新たな出発にむけて」 ヒルサイドギャラリー (東京)
- 2006年 「ポップ道: 1960s-2000s」 東京都現代美術館 (東京)
「シンギュラーマルティプルズ: ピーターブラムエディション 1980-1994」
ヒューストン美術館 (テキサス、アメリカ)
「インフォーカス: リヴィングヒストリー」 テートモダン (ロンドン、イギリス)
ニュー・サウス・ウェールズ美術館 (オーストラリア)
- 2005年 「風景遊歩」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (香川)
「Swarm」 ファブリックワークショップアンドミュージアム (フィラデルフィア、アメリカ)
「アートクロッシングヒロシマプロジェクト 2005」 プラウツェバイク美術大学アートギャラリー (ドイツ)
- 2004年 「イメージをめぐる冒険」 横浜美術館 (神奈川)
「コピーの時代」 滋賀県立近代美術館 (滋賀)
- 2003年 「Windstil」 コッテム・ギャラリー (ブリュッセル、ベルギー)
「九州力」 熊本市現代美術館 (熊本)
- 2002年 「Money and Value」 スイス国立銀行, キュレーター: Harald Szeemann (ビール湖, スイス)
「第二回福岡トリエンナーレ」 福岡アジア美術館 (福岡)
「Cultural Crossing」 ヌマーク・ギャラリー (ワシントンDC, アメリカ)
グループ・ショウ, レイノルズ・ギャラリー (リッチモンド, アメリカ)
- 2001年 「Made in Asia」 デューク大学美術館 (ノースキャロライナ, アメリカ)
「Tokyo Pop」 カンザス・シティ・ジュイッシュ美術館 (カンザス・シティ, アメリカ)
「Talking Heads」 コッテム・ギャラリー (バルセロナ, スペイン)
- 2000年 「Diary」 コーナーハウス (マンチェスター, イギリス)
巡回: ファーストサイト (コーチェスター, イギリス)
「2000 ホイットニー・ビエンナーレ」 ホイットニー美術館 (ニューヨーク, アメリカ)
「Vanitas-Meditation of life and death in contemporary art」
ヴァージニア美術館 (リッチモンド, アメリカ)
「2000 光州ビエンナーレ」 (光州, 韓国)
「空き地」 豊田市美術館 (愛知)
「Dark Mirrors of Japan」 De Appel (アムステルダム, オランダ)
「Umedalen Skulptur 2000」 ステファン・アンダーソン・ギャラリー (スウェーデン)
「プラスティックの時代、美術とデザイン」 埼玉県立近代美術館 (埼玉)
「現代美術百貨展」 山梨県立美術館 (山梨)
「Open Ends—One Thing After Another」 ニューヨーク近代美術館 (アメリカ)
「Landscape Encoded」 テート・モダン (ロンドン, イギリス)
- 1999年 「Relay Drawings: Eye, Hand, Other」 バックネル大学アートギャラリー (ペンシルベニア, アメリカ)
- 1998年 「Animal, Anima, Animus」 ポリ美術館 (ポリ, フィンランド)、
巡回: Museum voor Moderne Kunst (Arnhem, オランダ)、PS1 ミュージアム (ニューヨーク, アメリカ),
Winnipeg Art Gallery (Winnipeg, カナダ)
「Sehnsucht Helmat」 クンストハーレ・チロル (インスブルック, オーストリア)
「Taste and Persuits: Japanese art in the 1990」 ニューデリー国立近代美術館 (インド)
巡回: メトロポリタン美術館 (マニラ, フィリピン)
「オン・ザ・エッジ」 テルアビブ美術館 (テルアビブ, イスラエル)

〈主なグループ展〉

- 1997年 「表出する大地」 広島市現代美術館（広島）
「アトラス・マッピング」 Offenes Kulturhaus（リンツ、オーストリア）
巡回：Kunsthau Bregenz & Magazin 4（ブレゲンツ、オーストリア）
「Changing Spaces」 マイアミ美術館（マイアミ、アメリカ）
「ビエンナーレ・ド・リヨン」 Halle Tony Garnier（リヨン、フランス）
「PROJECTS」 アイルランド近代美術館（ダブリン、アイルランド）
- 1996年 「イースタン・フュージョン」 ロングアイランド大学ヒルウッド美術館（ロングアイランド、アメリカ）
「Avant-Garde Walk in Soho」 （ニューヨーク、アメリカ）
「カルチュラル・オリンピアド」 アトランタオリンピック主催（アメリカ）
「Conversation at the Castle」 （アトランタ、アメリカ）
「アイランズ」 オーストラリア国立ギャラリー（キャンベラ、オーストラリア）
「美術家の冒険 多面化する表現と手法」 国立国際美術館（大阪）
「アジア・パシフィック・トリエンナーレ」 クイーンズランド・アート・ギャラリー（ブリスベン、オーストラリア）
サンパウロ・ビエンナーレ「ユニバーサリス」（サンパウロ、ブラジル）
「Paintings-The extended field」
マガザンスリーストックホルムクンストハーレ&ルーセアム（ストックホルム、スウェーデン）
「Un-frieden, sabotage von wirklichkeiten-discord, sabotage of realities」
Kunstverein Hamburg（ハンブルグ、ドイツ）
- 1995年 「ボーダー・クロウル」 クッチェ・ギャラリー（ソウル、韓国）
「日本の現代美術 1985-1995」 東京都現代美術館（東京）
「ミニマル・フォーム」 フジテレビギャラリー（東京）
「ジャパン・トゥデイ」 ルイジアナ近代美術館（デンマーク）
巡回：Kunsternes Hus（ノルウェー）、Waino Aaltonen Museum of Art（フィンランド）、
Liijevalchs Konsthall（スウェーデン）、MAK-Austrian Museum of Applied Arts（オーストリア）
「Age of Anxiety」 パワープラント（トロント、カナダ）
「第6回トリエンナーレ・Kleinplastik」 スドウェストLBフォーラム（ドイツ）
「50年後展」 徳島県立近代美術館（徳島）
- 1994年 「戦後日本の前衛美術」 横浜美術館（神奈川）
「アートラビリス：90年代美術への視座」 岡山県立美術館（岡山）
「水戸アニュアル'94：オープンシステム」 水戸芸術館（茨城）
「オールド・グローリー」 クリーブランド・センター・フォー・コンテンポラリー・アート（オハイオ、アメリカ）巡回：コロラド大学アート・ギャラリー（コロラド、アメリカ）、
フェニックス・アート・ミュージアム（アリゾナ、アメリカ）
「戦後日本の前衛美術 スクリーン・アゲインスト・ザ・スカイ」
グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
巡回：サンフランシスコ近代美術館/エルバビエナセンター（サンフランシスコ、アメリカ）、
ダイヒトアハレ（ハンブルク、ドイツ）
「アジアの創造力」 広島市現代美術館（広島）
「インサイト'94」 サンディエゴ現代美術館（アメリカ）
- 1993年 「アペルト'93、第45回ベニスビエンナーレ」（ベニス、イタリア）
「イン・ゼア・オウン・イメージ」 PS1 ミュージアム（ニューヨーク、アメリカ）
「名古屋国際ビエンナーレ」 名古屋市美術館（愛知）
「エクステンジ2」 シェドハーレ（チューリッヒ、スイス）
「トレード・ルート」 ニュー・ミュージアム（ニューヨーク、アメリカ）
「今日の作家展-視えない現実」 横浜市民ギャラリー（神奈川）
- 1992年 「バイ・アレンジメント」 ギャラリー・ギレン・ウスノー（パリ、フランス）
「都市と現代美術-廃墟としてのわが家」 世田谷美術館（東京）
「ミュージアム・シティ・プロジェクト」（福岡）
- 1991年 「ニューヨーク・ダイアリー」 PS1 ミュージアム（ニューヨーク、アメリカ）
- 1988年 岩国環境アートプロジェクト（山口）
「臨界芸術'88」 村松画廊（東京）
- 1987年 「大倉山アートムーヴ'87」 大倉山記念館（神奈川）
「'87神奈川アートアニュアル」 神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
「アートドキュメント '87」 栃木県立美術館（栃木）
- 1986年 「第6回 浜松野外美術展」 中田島砂丘（静岡）
「大谷地下美術展'86」 大谷資料館地下採掘場跡（栃木）
- 1985年 「第17回 現代日本美術展」 東京都美術館（東京）、京都市美術館（京都）

<主な所蔵先>

広島市現代美術館

ベネッセアートサイト直島、ベネッセハウス ミュージアム

犬島アートプロジェクト「精錬所」

高知県立美術館

原美術館

横浜美術館

高松市美術館

福岡市美術館

福岡アジア美術館

東京都現代美術館

徳島県立近代美術館

国立国際美術館

山梨県立美術館

滋賀県立近代美術館

沖縄県立博物館・美術館

テート・ギャラリー（ロンドン、イギリス）

ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）

フィラデルフィア美術館（フィラデルフィア、アメリカ）

ヴァージニア美術館（リッチモンド、アメリカ）

アレン・メモリアル・アート・ミュージアム、オーバーリン・カレッジ（オハイオ、アメリカ）

ルートヴィヒ財団近代美術館（ウィーン、オーストリア）

ルイジアナ近代美術館（デンマーク）

ニューヨーク・パブリック・ライブラリー（ニューヨーク、アメリカ）

ハーヴァード大学フォッグ美術館（ボストン、アメリカ）

マサチューセツ工科大学リスト視覚芸術センター（ボストン、アメリカ）

ヒューストン美術館（テキサス、アメリカ）

ファブリック・ワークショップ・ミュージアム（フィラデルフィア、アメリカ）

オーストラリア国立ギャラリー（キャンベラ、オーストラリア）

クイーンズランド・アート・ギャラリー（ブリスベン、オーストラリア）

スイスパーク・コーポレーション（ハートフォード、アメリカ）

ペイェリッシェ・ヴェレインズバンク（ミュンヘン、ドイツ）